

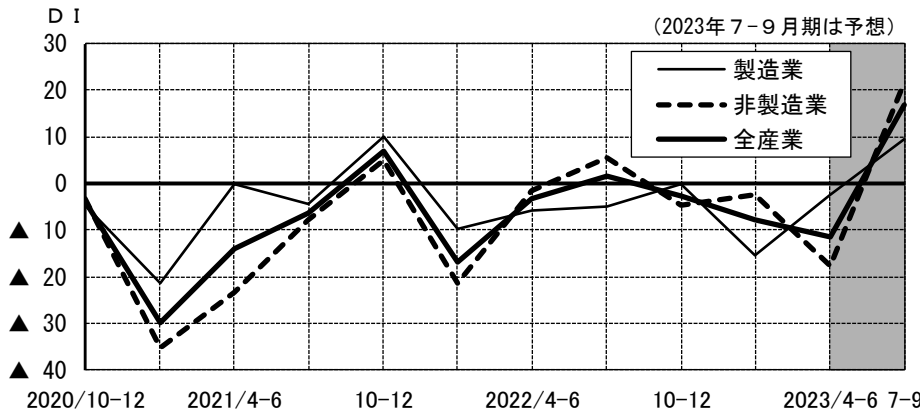
### 業況概要

### ～DIは製造業で大幅上昇、非製造業で大幅低下に転じる～

静岡県東部地域における2023年4-6月期の業況判断DI（全産業：前期比）は3期連続で低下となった（前期▲7.9→今期▲11.4：以下同様）。製造業は、食料品、一般機械器具、パルプ・紙・紙加工品などで売上や利益環境が改善したことから、全体でも▲15.4→▲2.4と大幅な上昇に転じた。一方、非製造業は、旅館・その他宿泊所（全国旅行支援の規模縮小）、建設（工事案件減）における売上環境悪化の影響により、全体では▲2.4→▲17.6と大幅な低下に転じ、製造業とは対照的な動きとなっている。

2023年7-9月期の予想DI（今期比）は全産業で16.8、うち製造業は9.5、非製造業は21.8といずれも大幅な上昇でプラス水準の回復を見込んでおり、先行きへの期待感が強くみられる。

《業況判断DI推移》



業況判断DI(全産業)推移

年	期	DI
2020	10-12	▲ 3.9
2021	1-3	▲ 29.9
	4-6	▲ 14.1
	7-9	▲ 6.3
	10-12	7.1
2022	1-3	▲ 17.0
	4-6	▲ 3.2
	7-9	1.4
	10-12	▲ 2.8
2023	1-3	▲ 7.9
	4-6	▲ 11.4
	7-9	16.8

DI：ディフュージョンインデックス（Diffusion Index）の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標。

《業種別天気図》

業況上昇 ←

→ 業況下降



	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス	旅館・その他宿泊所	建設
2023年1-3月期	☁️☔️	☁️☔️	☁️☔️	☁️☔️	☁️	☁️	☀️	☁️
2023年4-6月期	☁️	☀️☁️	☁️☔️	☁️	☁️☔️	☁️☔️	☁️☔️	☁️☔️
2023年7-9月期	☁️	☀️	☁️☔️	☁️	☀️☁️	☀️☁️	☀️	☀️☁️

※2023年1-3月期、4-6月期は前期比。7-9月期は今期比予想

### 《調査の概要》

#### 1. 調査目的

静岡県東部地域（富士川以東）の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握

#### 2. 調査対象企業

静岡県東部地域に立地する企業 782社  
回答企業数 210社（回答率 26.9%）  
※対象企業を前回比で拡大しています

#### 3. 調査方法

当研究所の指定した項目につき、実績と見通しを記入するアンケート調査

#### 4. 調査対象期間

実績：2023年4-6月期  
見通し：2023年7-9月期

#### 5. 調査時点

2023年5月中旬-6月中旬

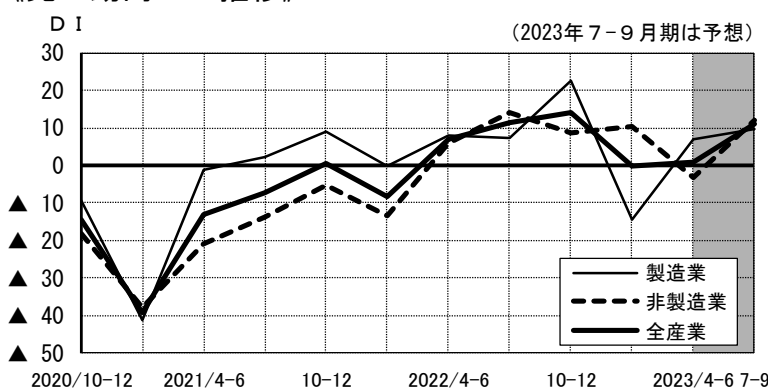
売上動向

製造業はプラス水準を回復も、非製造業は低下に転じる

2023年4-6月期の売上動向D I（全産業：前期比）はわずかに改善した（前期0.0→今期1.0）。製造業では食料品やパルプ・紙・紙加工品など多くの業種でD Iが10ポイント以上上昇し、全体では▲14.3→7.1と大幅な改善でプラス水準を回復した。コロナ関連の制限緩和による消費の回復や原材料・部品不足の改善などが寄与しているとみられる。一方、非製造業ではその他卸・小売・サービスは前期比横ばいで堅調に推移したが、旅館・その他宿泊所は全国旅行支援の規模縮小、建設は工事案件の減少などの影響でいずれもD Iが大幅に低下したため、全体では10.5→▲3.2と低下に転じ、製造業の水準を下回っている。

2023年7-9月期の予想D I（今期比）は、全産業で11.1と上昇を見込んでいる。特に、今期D Iが低下した非製造業では12.1と反転上昇への期待が目立つ。

《売上動向D I 推移》



売上動向DI	前期	今期
全産業計	0.0	1.0
製造業計	▲ 14.3	7.1
食料品	▲ 6.3	58.3
パルプ・紙・紙加工品	▲ 16.7	12.5
金属製品	▲ 6.3	0.0
一般機械器具	▲ 33.3	▲ 15.8
その他製造業	▲ 11.4	3.3
非製造業計	10.5	▲ 3.2
卸・小売・サービス	8.8	2.4
旅館・その他宿泊所	33.3	▲ 28.6
その他卸・小売・サービス	5.6	5.3
建設	13.6	▲ 14.3

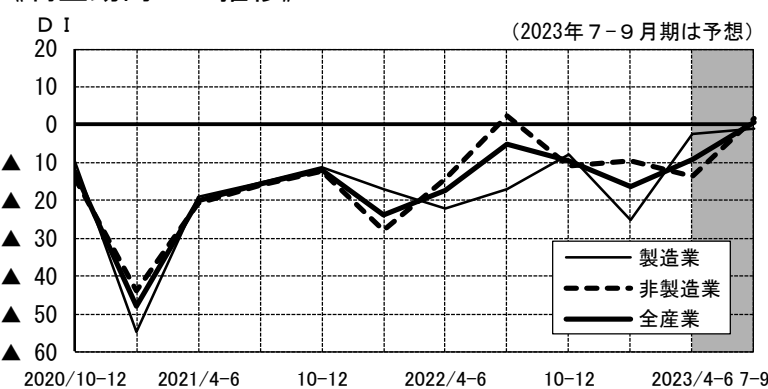
利益動向

製造業で大幅な上昇に転じるが、非製造業ではやや低下

2023年4-6月期の利益動向D I（全産業：前期比）は3期ぶりに上昇に転じたが、引き続きマイナス水準にある（前期▲16.3→今期▲9.0）。前期すべての業種でD Iが低下した製造業では、今期はパルプ・紙・紙加工品、食料品、一般機械器具で前期比30ポイント以上改善するなど回復が目立ち、全体でも▲25.3→▲2.4と大幅な上昇に転じて、直近ではD Iが最も高い水準となった。一方、非製造業ではその他卸・小売・サービスではわずかに上昇するなど堅調に推移したが、旅館・その他宿泊所ではD Iが大幅に低下、建設でも低下した影響から、全体では▲9.7→▲13.6とやや低下した。

2023年7-9月期の予想D I（今期比）は全産業で0.5と上昇を見込んでいる。うち、今期D Iが低下した非製造業では1.6とプラス水準の回復が期待されている。また、製造業も▲1.2と改善の継続が見込まれる。

《利益動向D I 推移》



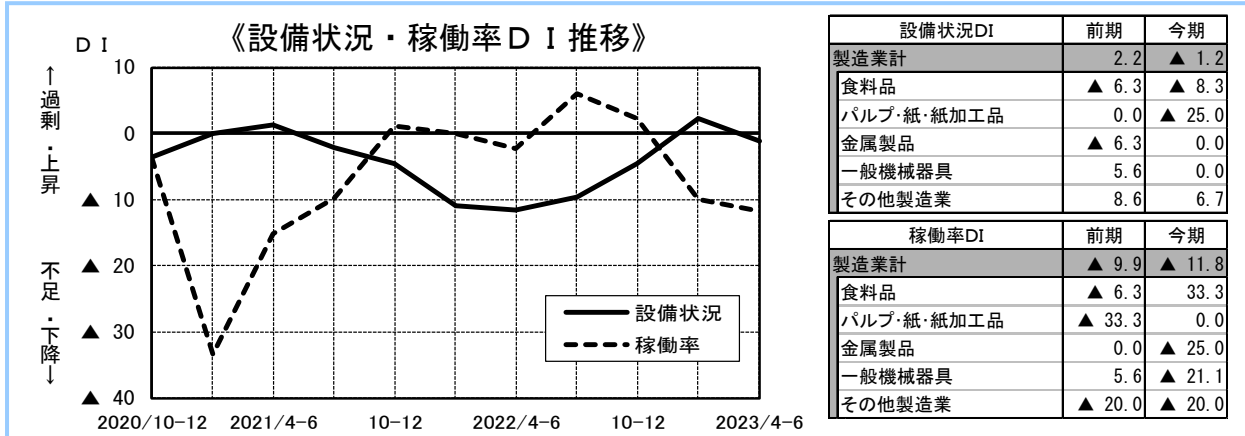
利益動向DI	前期	今期
全産業計	▲ 16.3	▲ 9.0
製造業計	▲ 25.3	▲ 2.4
食料品	▲ 43.8	▲ 8.3
パルプ・紙・紙加工品	▲ 16.7	25.0
金属製品	▲ 6.3	▲ 12.5
一般機械器具	▲ 33.3	0.0
その他製造業	▲ 22.9	▲ 3.3
非製造業計	▲ 9.7	▲ 13.6
卸・小売・サービス	▲ 6.3	▲ 10.8
旅館・その他宿泊所	33.3	▲ 14.3
その他卸・小売・サービス	▲ 11.3	▲ 10.5
建設	▲ 15.9	▲ 19.0

設備状況・稼働率  
(製造業)

設備状況は「不足」に転じる、稼働率は3期連続で低下

2023年4-6月期の設備状況DI(製造業)は、2.2→▲1.2と4期ぶりに低下に転じ、「過剰」から「不足」の判断に転じた。パルプ・紙・紙加工品など複数の業種でDIの低下がみられる。

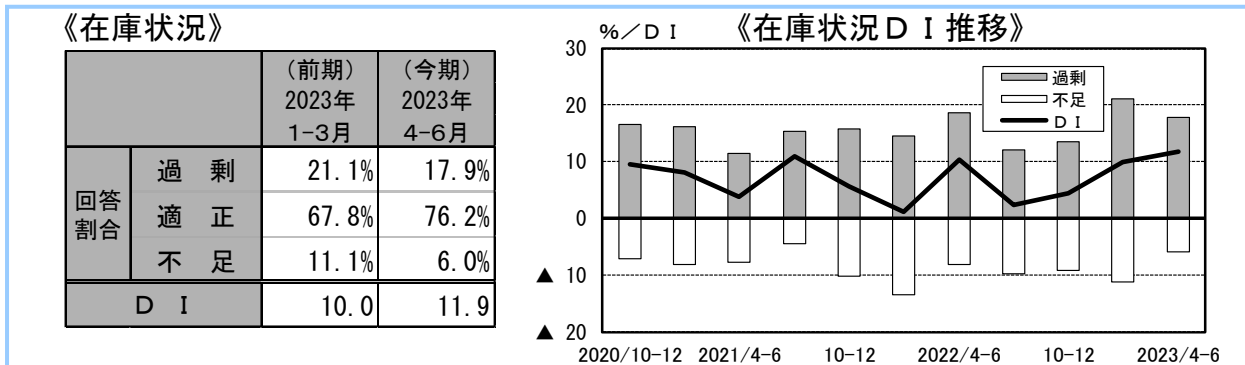
稼働率DI(製造業：前期比)は、▲9.9→▲11.8と3期連続で低下し、「下降」感がやや強まった。食料品やパルプ・紙・紙加工品は大幅上昇、一般機械器具や金属製品では大幅低下と業種間の差異が目立つ。



在庫状況  
(製造業)

DIは3期連続で上昇

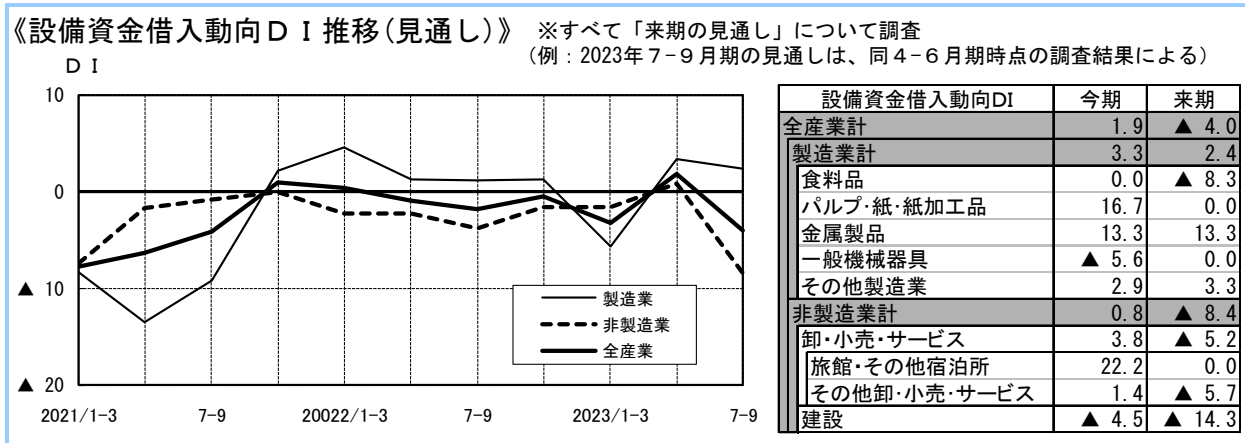
2023年4-6月期の在庫状況DI(製造業)は、10.0→11.9と3期連続の上昇となった。業種別では、パルプ・紙・紙加工品や食料品でDIの上昇幅が他より大きくなっている。



設備資金借入  
動向(来期予想)

全体DIは低下に転じ、再びマイナス水準となる

2023年7-9月期(来期)における設備資金借入動向DI(今期時点での予想、全産業)は、1.9→▲4.0と低下に転じ、再びマイナス水準で借入抑制の基調となった。業種別では、製造業は3.3→2.4とプラス水準を維持したのに対し、非製造業は0.8→▲8.4と10ポイント近く低下し、全体の水準を押し下げている。



経営上の問題点

「原材料・資材・仕入商品の値上り」の割合が大幅に低下

最も指摘が多いのは引き続き「原材料・資材・仕入商品の値上り」であるが、割合は前期の61.4%から45.2%と大幅に低下し、6期ぶりに50%を下回った。また、「その他経費の増加」も前期比6ポイントの低下に転じている。一方、「人材の育成」が同8ポイントの上昇となり、「求人難」や「受注・売上の停滞・減少」の割合を上回って2番目に指摘が多くなった。

《経営上の問題点（上位8項目）》

(複数回答)

順位	問題点	2022年10-12月期		2023年1-3月期		2023年4-6月期		前期比 割合変動
		企業数	割合	企業数	割合	企業数	割合	
1	原材料・資材・仕入商品の値上り	130	59.6%	132	61.4%	94	45.2%	↓
2	人材の育成	60	27.5%	66	30.7%	80	38.5%	↑
3	求人難	77	35.3%	69	32.1%	64	30.8%	↓
4	受注・売上の停滞・減少	70	32.1%	70	32.6%	62	29.8%	↓
5	従業員の高齢化	56	25.7%	64	29.8%	58	27.9%	↓
6	人件費の増加	47	21.6%	52	24.2%	56	26.9%	↑
7	その他経費の増加	62	28.4%	61	28.4%	46	22.1%	↓
8	過当競争・製品安	24	11.0%	23	10.7%	29	13.9%	↑

(回答企業数：218)

(回答企業数：215)

(回答企業数：208)

《業種別回答企業数およびDI》

※借入動向（設備資金）は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	回答 企業数	DI						
		業況判断	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	借入動向
全産業計	210	▲ 11.4	1.0	▲ 9.0	-	-	-	▲ 4.0
製造業計	85	▲ 2.4	7.1	▲ 2.4	▲ 1.2	▲ 11.8	11.9	2.4
食料品	12	25.0	58.3	▲ 8.3	▲ 8.3	33.3	16.7	▲ 8.3
パルプ・紙・紙加工品	8	▲ 25.0	12.5	25.0	▲ 25.0	0.0	0.0	0.0
金属製品	16	▲ 12.5	0.0	▲ 12.5	0.0	▲ 25.0	12.5	13.3
一般機械器具	19	5.3	▲ 15.8	0.0	0.0	▲ 21.1	5.6	0.0
その他製造業	30	▲ 6.7	3.3	▲ 3.3	6.7	▲ 20.0	16.7	3.3
非製造業計	125	▲ 17.6	▲ 3.2	▲ 13.6	-	-	-	▲ 8.4
卸・小売・サービス	83	▲ 16.9	2.4	▲ 10.8	-	-	-	▲ 5.2
旅館・その他宿泊所	7	▲ 42.9	▲ 28.6	▲ 14.3	-	-	-	0.0
その他卸・小売・サービス	76	▲ 14.5	5.3	▲ 10.5	-	-	-	▲ 5.7
建設	42	▲ 19.0	▲ 14.3	▲ 19.0	-	-	-	▲ 14.3

特別調査：2023年度の設備投資 / 原材料・部品・商品等の入手難の状況

(nは回答数)

①2023年度の設備投資

- 設備投資の実施（全産業）は「予定がある」48.1%、「予定はない」51.9%でほぼ二分された。ただし、製造業で「予定がある」が59.5%に対し、建設では28.6%と、業種間の動向には差異がある。
- 「予定がある」理由（複数回答）は「既存設備の老朽化・更新時期到来」が77.0%で最も多く、以下、「合理化・省力化」50.0%、「製品・商品開発や付加価値向上への投資」34.0%と続いている。一方、「予定はない」理由（同、※図表なし）は「建物・設備等を更新する必要がない」が68.3%、「受注・売上・利益見通しの悪化」が41.6%と多くなっている。

設備投資	全産業 n=208	製造業 n=84	卸・小売・サー ビス n=82	建設 n=42
予定がある	48.1%	59.5%	46.3%	28.6%
予定はない	51.9%	40.5%	53.7%	71.4%

予定がある理由 (複数回答)	全産業 n=100	製造業 n=50	卸・小売・サー ビス n=38	建設 n=12
老朽化・更新時期 到来	77.0%	72.0%	81.6%	83.3%
合理化省力化	50.0%	60.0%	39.5%	41.7%
開発、付加価値向上	34.0%	42.0%	28.9%	16.7%
受注・売上・利益等 見通し改善	17.0%	20.0%	10.5%	25.0%
新規事業、拠点拡大	16.0%	16.0%	15.8%	16.7%
その他	10.0%	14.0%	2.6%	16.7%

②原材料・部品・商品等の入手難の状況

- 回答時点において、入手難（数量が確保できないか、納期の遅延・不安定な状態を指し、単なる価格高騰は除く）の品目が「ある」企業は全産業で34.5%、概ね3分の1となった。この割合は、各業種ともほぼ同程度となっている。

入手難の 品目	全産業 n=203	製造業 n=84	卸・小売・サー ビス n=77	建設 n=42
ある	34.5%	35.7%	32.5%	35.7%
ない	65.5%	64.3%	67.5%	64.3%